

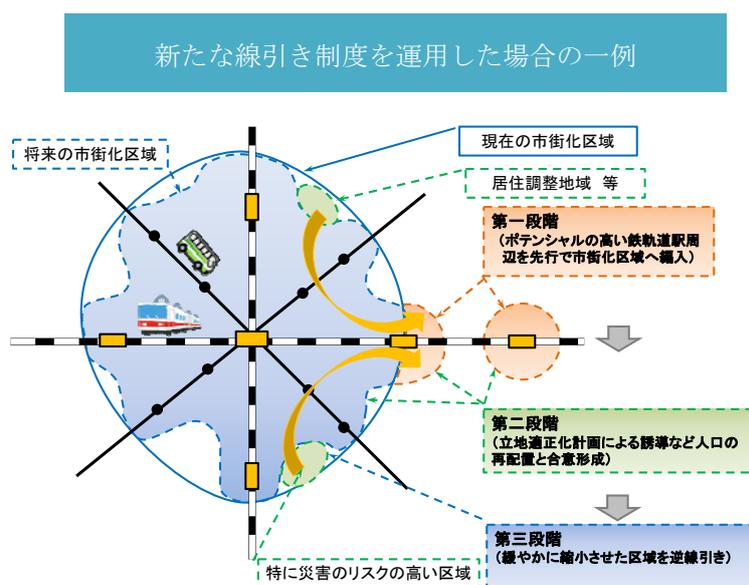
人口減少下における新たな都市計画制度の創設に向けた提言

集約型都市構造の実現に向けて取り組んでいる中であって、市街化区域は、将来人口を基本としつつ、世帯数や産業活動の将来見通しを加え、市街地の必要規模面積を即地的に割り付けるいわゆる人口フレーム方式を基本として設定することとされている。このことから、人口減少が進行する中では、市街地の規模が人口規模の減少に比例して縮小していくこととなる。

一方で、持続的に発展可能な都市を構築するためには、国際競争力の強化や市街化区域内に特に災害のリスクが高い地域があることへの対策等の観点を踏まえ、市街地の範囲を適切に定めることが必要である。

このため、新たな都市計画制度の創設に向けて、以下のとおり提言する。

公共交通を軸とした集約型都市構造の形成、津波や洪水、土砂災害などによる災害時にも安全・安心な都市構造への転換、さらには国際競争力強化等に向けて、都市の実情によっては、将来的には市街地の一部を緩やかに縮退させることも見据え、人口フレーム方式による一律的な設定のみでなく、市街地の範囲を適切に誘導するための新たな戦略的市街地形成を認めていくこと。



平成 28 年 12 月 20 日
指定都市市長会